



## はじめに

ご紹介するのは、現在は高校1年生、3年前に入学し、この3月に卒業した善行中学校37期生の取り組みです。総合的な学習の時間（以下「総合」）を中心に、「知って・考えて・伝えよう ヒロシマ・平和への思い」をテーマとし、3年間で時間をかけて平和学習に取り組んできました。1年次、夏休みの平和レポートを皮切りに、3年次の広島への修学旅行など、振り返ってみると様々な平和学習を積み重ねてきたことを感慨深く思います。今回は、その中で、ユニセフとの関わりの大きな実践をご紹介します。

## 3年間の平和学習の概要

	9月 「平和・人権」をテーマにしたレポート作成（文化祭に展示）
○ 1年次：	レポートを題材にしたグループディスカッション（総合・国語科）
	12月 映画『まっ黒なおべんとう』（監督 出崎哲 1990）鑑賞、被爆体験者の話を聞く会
	1月 ワークショップ「世界がもし100人の村だったら」（開発教育協会制作） 平和講演会『奪われた手足』（地雷廃絶を訴える写真家の話）
○ 2年次：	2月 *①パネルディスカッションから平和意見文集へ「平和な世界を築くには」（総合・国語科） 3月 ヒロシマノートの作成（広島平和記念公園、平和記念資料館のガイドブック） 「平和への願いを込めて千羽鶴を届けよう」（Thousand Cranes For Peace project）
	5月 NHKビデオ『核戦争後の地球』鑑賞（総合） 修学旅行での平和学習（千羽鶴献上、語り部さんのガイドで平和記念公園の碑めぐり、平和記念資料館見学） 修学旅行の事後学習として、「平和祈念詩集」の作成（国語科）
○ 3年次：	9月 平和祈念詩朗読発表会（総合） 10月 佐々木祐滋さん講演会（折鶴の少女、佐々木禎子さんの甥） 3月 ワークショップ「貿易ゲーム」（社会科）（開発教育協会制作） NPO体験活動（総合） *②ユニセフ出前講座と募金活動（総合）

## ユニセフとの関わりの大きな2つの実践

### \*①「平和な世界を築くには」

～パネルディスカッションから平和意見文集へ～

パネルディスカッションは、パネリストが意見を述べ、フロア（聴衆）とともに一つのテーマを深めていく議論のことです。ここでは、これまでの平和学習で世界の現状を知り、戦争による飢餓や貧困、児童労働の問題など、それぞれの生徒が自身の疑問の強かったテーマを調べ、発表し、クラス討議を重ねて考えを深

める学習の設定としました。

そこで、生徒一人ひとりのテーマの掘り起こしや調べ学習に大いに役立つたのが、ユニセフのポスターやHPでした。特に、ユニセフのHPは、中学生に関心の高い世界の子どもたちの課題が国ごとにわかりやすく紹介されており、そのエピソードは生徒の心をつかみ、自分も何かしら行動しなければという思いを振り動かしてくれました。また、世界の子どもたちの写真も強く生徒たちに訴えかけます。その写真や資料を元に、生徒たちはパネルディスカッションで「平和な世界を築くにはどうすればよいのか」「今の自分たちにできることは何か」「将来自分たちはどんな考え方を持ち、生きていけばよいか」などを活発に、真剣に話し合うことができました。

そして、パネルディスカッションで深まった平和への思いを原稿用紙に綴り、クラスごとに平和意見文集を作成しました。文集は印刷して配付するのみではなく、善行中学校のウェブページに掲載し、世界に伝えるよう発信しました。また、全員の意見文を「JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト2013」に応募し、ご来校いただいたJICAの方から、学校賞をいただきました。

## \*② ユニセフ出前講座と募金活動

「平和への思いを伝えて終わるのではなく、次は行動に移そう。」平和祈念詩朗読発表会で平和学習実行委員長が生徒たちに喚起した言葉です。それを実行すべく、卒業まであと1週間という頃、3年生全員でユニセフ募金活動に取り組むことになりました。140名の学年全員で募金活動は本校では初めてのことです。

募金実施の前日、神奈川県ユニセフ協会の方にご来校いただき、水がめを運ぶ体験をして職員の方のお話を聞くことで、今一度、世界の子どもたちの現状を思い起こすことができました。その成果は、翌日の募金をする



大声で呼びかけた募金活動

生徒たちの姿に現れました。3時間、藤沢市の各所の駅に立ち、声も枯れんばかりに、「今、世界では、5歳になる前に660万人の子ども達が命を落としています。ユニセフ募金にご協力お願いします」と繰り返し叫び続けたのです。生徒たちの一生懸命な姿に、多くの方が足を止めてくださいました。「頑張ってね」「私もユニセフにいつも募金しているのよ」。皆さんの応援と共に集まった募金の額は、生徒はもちろん、私たち職員の予想を上回る驚きの額となりました。

## おわりに

「世界を平和にするなんて無理」「キレイだと」。正直すぎる生徒の感想に力不足を感じることもありましたが、この3年間、ユニセフと関わりながら平和学習の取り組みを続けていくうちに、多くの成果がありました。

例えば、神奈川県作文コンクールで平和への思いをテーマにした生徒の作文が県知事賞に入選したこと、社会科の憲法の学習ではほぼ全員に平和主義を貫く意見が見られたこと、3年間を振り返って自分自身が中学校生活で力を入れた取り組みの一つに平和学習のことを取り上げる生徒が多くいたことなどです。そんな姿を目にするときは、生徒たち同士に、また、私たち教員との間に、目に見えないつながりを感じました。

しかし、真の平和学習の目的は、募金活動という表面的なことだけではなく、貧困の原因や紛争を引き起こす社会構造について学び、平和な世界を目指して行動に移す、そして平和への思いをいつまでも持ち続ける大人を育てることだと思います。ヒロシマの平和の灯が消えるその時まで。



パネルディスカッションで  
マリの水問題について発表



平和意見文の学年発表会